

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		その他(道路災害防除、防災を主目的とした道路改築)		路河川名等		(主)松川大鹿線	
事業毎の通番		1		市町村名		大鹿村	
事業目的		主要地方道松川大鹿線は、松川町生田地籍を起点とし、大鹿村の中心地である落合地区方面への幹線道路である。当該路線は第2次緊急輸送路に指定されており、大鹿村から伊那谷への唯一の道路となっているが、平成31年4月17日に発生した落石の際には、周辺に迂回路がなく全面通行止により村外に通勤・通学する住民を中心に多大な影響が発生した。抜本的な対策として、施工性及び維持管理面等を比較検討した結果、施工の確実性が高く維持管理面が有利な危険箇所を迂回するトンネル案を採用し、早期に安全な通行を確保したい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け		4-1 国土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策(R2.12.11閣議決定)	
関連する事業、計画等		第2期長野県強靱化計画、長野県地域防災計画、信州みちビジョン					
安全対象・範囲 受益対象・範囲		第2次緊急輸送路 現況自動車交通量:1,808台/日					
着手年度		令和2年度		事業期間		5年間	
完成年度(見込み)		令和7年度		費用対効果		-	
全体事業内容(主な工種)		トンネル工 L=1,400m W=6.0(8.0)m		事業費(千円)		4,500,000	
				国庫		2,250,000	
				その他		-	
				県債		2,025,000	
				一般財源		225,000	
事業効果		直接的効果(定量的・定性的) ・孤立集落の発生を回避し、災害に強い道路となる ・維持管理面で現状より有利となる 間接的効果(定量的・定性的) ・地域間交流の促進					
必要性		○ 交通量:1,808台/日(H27センサス) ○ 点検上の評価:対策済だが想定を上回る被災あり ○ 医療・福祉・教育施設との連携:該当なし ○ 交通結節点アクセス:松川IC、大鹿村役場へのアクセス道路					評価
重要性		○ 緊急輸送道路の路線指定:県緊急輸送路(2次)に路線指定 ○ 孤立集落:災害発生した際は(国)152号が迂回路となるが、冬期は通行不能のため、孤立集落が発生 ○ 地域指定:地震防災対策強化地域(東海地震地域)					評価
効率性		○ 事業期間:5年間(R2~R7) ○ 工法等の比較検討:対策方法及びルートについて比較検討を実施					評価
緊急性		○ 被災履歴:重大な被災履歴あり(H31.4.17落石発生、落合トンネル坑門破損、全面通行止) ○ 斜面等の安定度:不安定(不安定岩塊68箇所) ○ 斜面の高さ:不安定ブロック最大高180m ○ 斜面勾配:最大斜度70°					評価
計画熟度		○ 事業情報の共有:関係者を中心に周知済 ○ 地域の取り組み:松川インター大鹿線及び松川大鹿線改良促進期成同盟会、大鹿村などから要望、提言あり ○ 地域の合意形成:関係者との合意形成が図られている ○ 住民との協働:なし ○ PDCA 事後・再評価からのフィードバック:事後評価5-8(維持管理)					評価
所管課の意見		大鹿村から伊那谷への唯一の道路となっているが、過去に落石が発生し緊急性が高く、地元から強い要望があることから、事業着手することが妥当と判断する。				採択状況	総合評価
建設部公共事業評価委員会の意見		所管課の意見が妥当と判断する。				○	A
県の評価案		事業着手		評価監視委員会意見		-	
				評価の決定		事業着手	

事業概要説明図表	位置図		平面図		
標準横断面図	トンネル区間		状況写真		
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景		当該路線は松川町と大鹿村を結ぶ第2次緊急輸送路に指定されており、大鹿村から伊那谷への唯一の道路となっている地域の生命線だが、平成31年4月17日に発生した落石の際には、周辺に迂回路がないことから、全面通行止により村外に通勤・通学する住民を中心に多大な影響が発生した。		
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり		調査の結果、不安定岩塊が多く残り、今後も災害発生リスクが高いことから、松川インター大鹿線及び松川大鹿線改良促進期成同盟会、大鹿村などから抜本的な対策を求められた。		
	③事業説明等の経緯		事業について関係者との合意形成は図られており、関係する地権者からの了解も概ね得られている。		
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連		リニア中央新幹線トンネル工事の残土運搬ルートに位置付けられている。既設トンネルの活線分岐工により、現道交通は確保できる。		
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮		危険箇所を迂回するトンネルの施工のため、自然環境・生活環境への影響は最小限である。		
	⑥地域活性化への影響と配慮		松川ICと大鹿村を結ぶ交通の安全性が向上するため、大鹿村の観光地の活性化が期待される。		
	⑦その他		特になし		
事後・再評価からのフィードバック		継続した道路交通の安全性を確保する。		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 34' 49.1" 東経:E 138° 01' 33.8"